

第1章

計画の基本的な考え方

1 基本理念

(1) 総合計画からみた本市の将来像

本市では、総合計画において、郡上市の特性を踏まえ、今後のまちづくりに求められる方向性を示す基本理念を、『みんなでつくる郡上 ～人と自然が調和した 交流文化のまち～』としています。

【基本理念設定にあたって重視したポイント】

市民と行政が力を合わせた「協働」を大切にします。

歴史・文化に培われ、地域イメージとして定着した「郡上」の名を大切にします。

豊かな自然のなかで育まれた「郡上らしさ」を大切にします。

経済効果を生み出す交流産業を生かすとともに、市民と来訪者の心のつながり「共感」を大切にします。

市内各地の「個性」ある地域文化を大切にします。

市民一人ひとりの顔がみえる「まち」の良さを大切にします。

また、郡上市がめざす地域の将来像を次のように設定しています。

①訪ねたいまち 郡上【交流】

たくさんの人々が訪れる郡上市の「歴史」「人」「生活文化」の魅力を大事に育てながら、世代や地域を越えた結びつきを大切にし、何度でも「会いたい」「訪ねたい」と思える、心ふれあう交流のまち・郡上の実現をめざします。

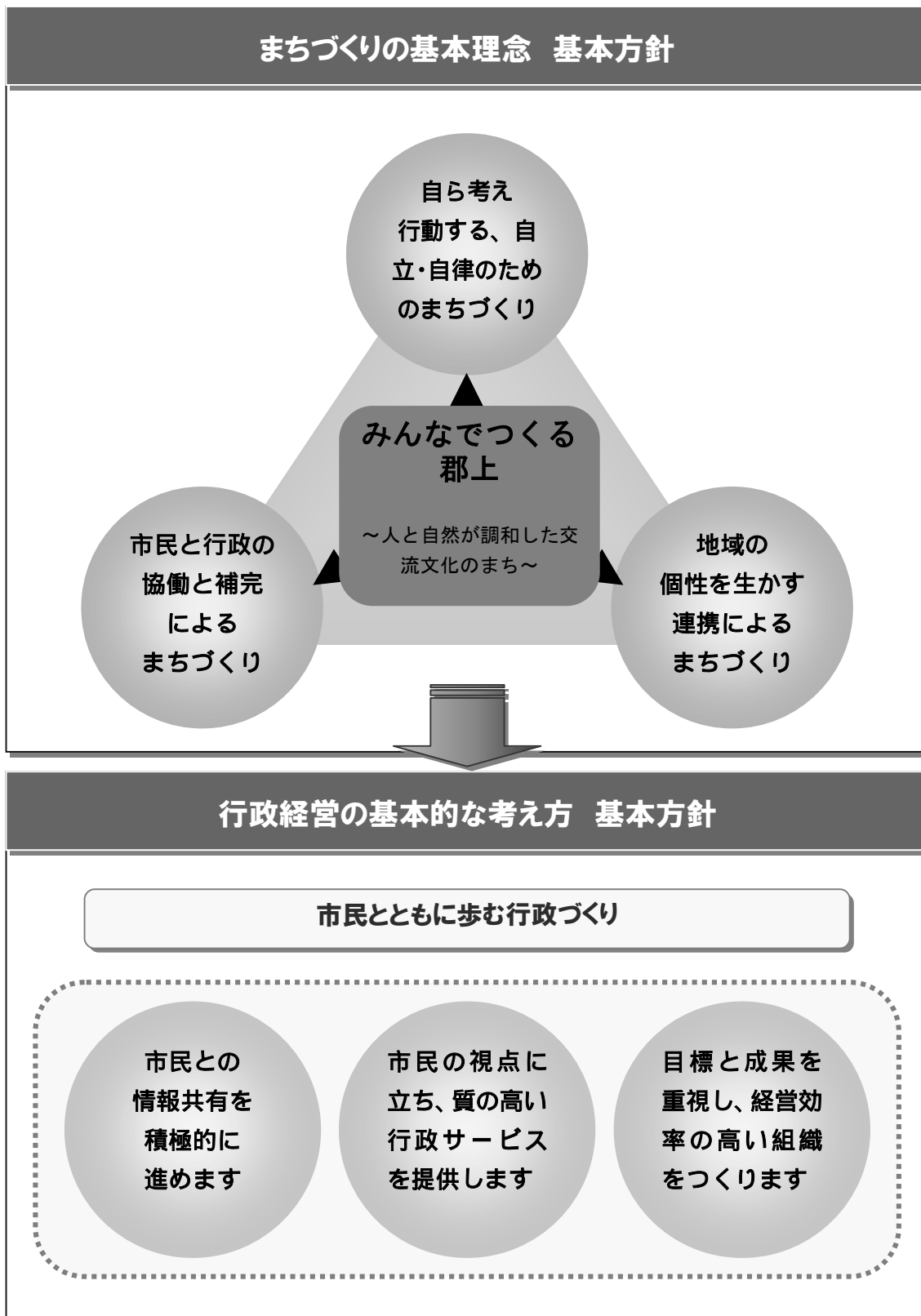
②輝きたいまち 郡上【活力】

まちづくりへの積極的な市民参画を通じて、元気な地域社会づくりを進めるとともに、これからの郡上市を担っていく子どもたちが伸び伸びと育ち、夢を実現できる環境を整え、また、恵まれた自然環境と地域の特性や既存産業を生かした取り組みを進めることで、誰もが未来に向かって「輝きたい」、「輝き続けることのできる」活力あふれるまち・郡上の実現をめざします。

③住みたいまち 郡上【安心】

夢のある家庭づくりや子育てができる社会環境を築き、健康な心身を保つことができる「健やかに暮らせるまちづくり」を進め、いつまでも「住み続けたい」、「住んでみたくなる」安心のまち・郡上の実現をめざします。

郡上市総合計画の基本理念・基本目標



(2) 本計画の基本理念

本市の基本理念『みんなでつくる郡上 ～人と自然が調和した 交流文化のまち～』を受け、市民一人ひとりが地域の住民として自覚と責任を持ち、お互いのプライバシーや尊厳が保たれ、健康で、いきがいを持って安心して暮らし続けられるまちづくりを進めます。

また、地域には様々な人が暮らしており、本市のような広大な山間地域においては、地理的、基盤整備の状況などにより、それぞれ地域が抱える課題は様々です。それらの問題を解決するためには行政の支援だけでは限界があります。市民は地域の問題を他人事ではなく自分自身のこととして受け止め、どのようにすれば安心して暮らしやすいまちが実現するのかを考えることが必要です。

地域の問題に対する市民の関心や取り組みがあれば、市民によるまちづくりが可能となります。自分たちの地域を暮らしやすくしていくことが、郡上市の目指すまちづくりへとつながります。そのためには、市民同士の日々の助けあいや支えあい、市民と企業、各種団体、行政などの協働により地域の活動を発展させていき、自分たちのまちは自分たちで創り、そしてより市民にとって暮らしやすい、質の高いまちを育んでいきます。

本計画の基本理念

**みんなで創り、みんなで育む、
安心して暮らし続けられるまち 郡上**

(3) 市民がめざす生活の質(QOL)

本計画の基本理念のもと、市民の方々が毎日の生活の中でどのような生活を望んでいるのかを表したものです。次項で説明しますヘルスプロモーションの考え方に基づき、グループインタビューの結果から得られた市民の声をまとめたものです。

- ・ 一人ひとりの市民が、良好な健康感や生きがいを持ち自分らしく生涯を送りましょう。
- ・ 互いに支え合い安心して楽しく暮らし続けられる地域づくりを進めましょう。
- ・ ノーマライゼーションの実現をめざすまちづくりを進めましょう。

生活の質(QOL)：満足感・幸福感などの主観的側面も加味して、人間らしい生活とは何かを求めていく視点。

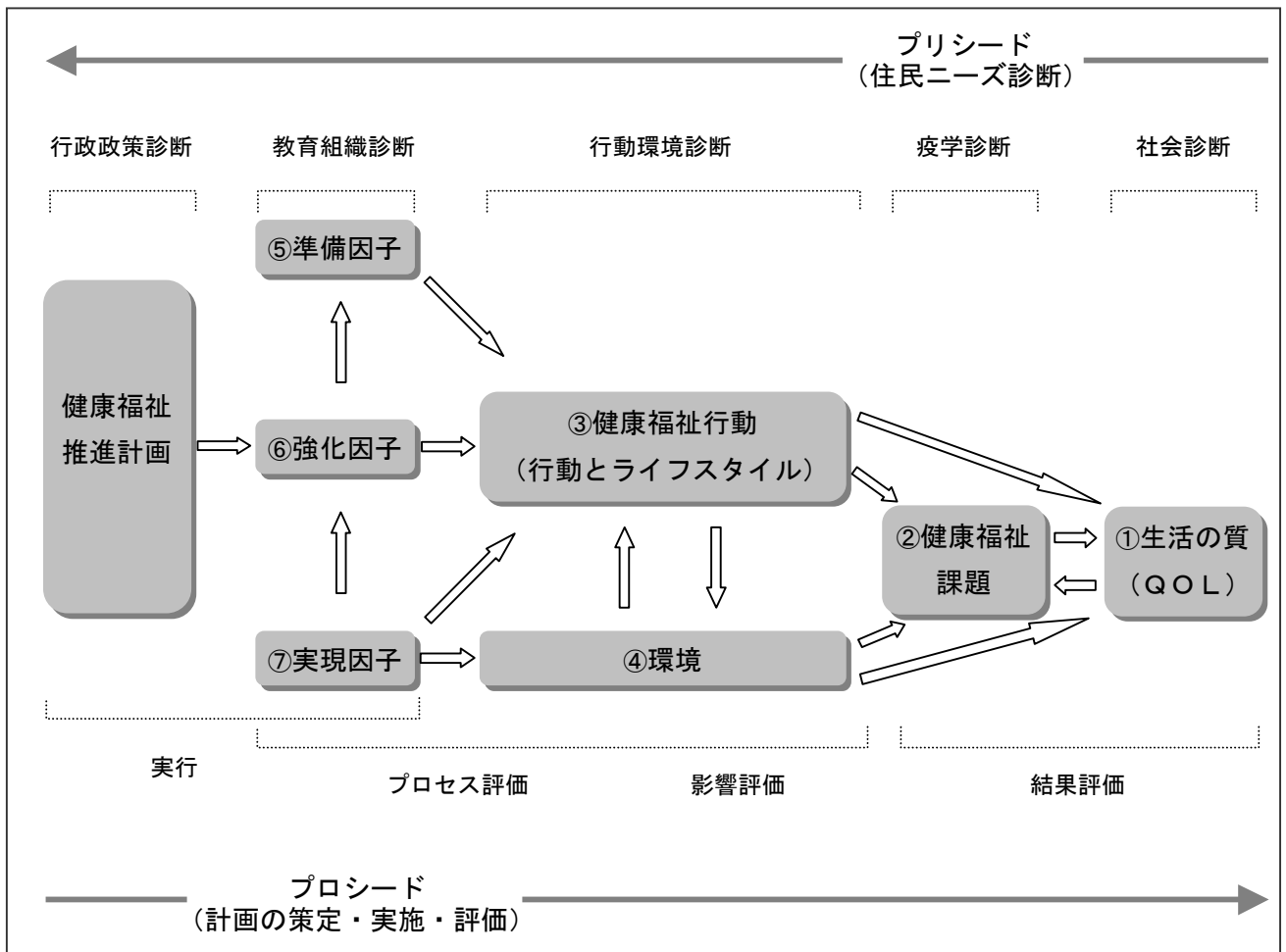
ノーマライゼーション：障害者や高齢者に関わらずあらゆる人が共に住み、共に生活できるような社会を築くこと。

2 計画の基本的な視点

(1) ヘルスプロモーションの考え方に基づく計画策定

ヘルスプロモーションの展開方法としてアメリカのグリーン博士らによって開発されたプリシード・プロシードモデルを基本に、計画策定しました。プリシード・プロシードモデルでは、「診断」→「計画」→「実施」→「評価」のプロセスに沿って、健康福祉施策を有効に進めていくことになります。

プリシード・プロシードモデルの図



ヘルスプロモーション：「健康は自分自身でコントロールできるように、市民一人ひとりの能力を高めること」、「そのために個人の努力にだけゆだねるのではなく、健康を支援する種々の環境を整備していくこと」を二本柱として展開していく公衆衛生戦略。

①生活の質(QOL)

住民の方々が毎日の生活の中でどのような生活を望んでいるのかを表したもの
社会的な問題として選んだもの、既存の資料やインタビューから抽出しているもの

②健康福祉課題

QOLに影響を及ぼす健康福祉課題を抽出したもの
調査や既存データ等から郡上市における実態を把握

③健康福祉行動(行動とライフスタイル)

QOLや健康福祉課題に影響を及ぼしている生活習慣や健康福祉行動を抽出したもの

④環境

QOLや健康福祉課題に影響を及ぼしている環境を抽出したもの

⑤準備因子

行動を起こすために本人に事前に必要なこと
～の知識がある・～についての態度・～についての信念・～の価値観を持っているなど

⑥強化因子

行動を継続するために必要なこと
行動後の満足感や達成感・本人の気持ちよさ、家族、周りの人や専門家の理解と協力

⑦実現因子

行動を起こす際に必要なこと
個人の技術、社会資源・受け皿の整備(近接性・利用しやすさなど)

(2) 市民のめざす姿(QOL)の明確化

市民がどのような状態であればより豊かな人生を送り質の高い生活ができるのか、到達する目標をめざす姿(QOL)として設定しました。

(3) 各世代に応じた健康福祉行動の課題と優先順位の明確化

各世代に応じた健康福祉課題を市民とともに確認し、優先順位を明確にします。市民へのグループインタビューや実態調査等から考えられる課題について、重要度や取り組みやすさの視点で総合的に判断したうえで決定しました。

(4) 世代別の目標設定

世代によって、それぞれのライフスタイルが異なり、抱えている健康福祉課題も異なります。そのため下表のとおり6つのライフステージに分類し、それぞれの世代ごとの健康福祉課題に応じた数値目標を設定しました。この数値目標は、ライフステージが連続的に繋がっていくものとして、目標設定を行ったものです。

ライフステージの分類

	ライフステージ名称	年齢区分
1	乳幼児期（妊娠出産を含む）	0歳～6歳
2	学童思春期	7歳～18歳
3	青年期	19歳～39歳
4	壮年期	40歳～64歳
5	実年期	65歳～74歳
6	高齢期	75歳以上

(5) 地域性を考慮した取り組みに向けて

郡上市は平成16年3月1日に、7町村の合併により、広大な市域となりました。そのような中で、地域の健康づくりや福祉に関する課題も様々であり、地域に応じた取り組みが必要となります。また、地域の捉え方も隣近所から、自治会、小学校区、中学校区、旧町村域、市全域と様々なため、本計画は、市全体での健康福祉課題を整理し、取り組みの方向性を示したうえで、その中から、今後、地域をはじめとした様々な場において優先的に取り組むべき課題の解決に向けた施策を検討していきます。